

故 近本謙介教授 略歴・業績

〈略 歴〉

生年月日 1964年 5月24日

没年月日 2023年 2月18日

学 歴

- 1983年 3月 福岡県立東筑高等学校卒業
1983年 4月 大阪大学文学部国文学国語学科国文学専攻入学
1987年 3月 大阪大学文学部国文学国語学科国文学専攻卒業
1987年 4月 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程
国文学国語学科国文学専攻入学
1990年 3月 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程
国文学国語学科国文学専攻修了
1990年 4月 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程
国文学国語学科国文学専攻進学
1995年 3月 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程
国文学国語学科国文学専攻単位修得満期退学
1996年 3月 博士（文学）学位取得（大阪大学）

職 歴

- 1990年 4月 梅花短期大学非常勤講師（1993年 3月まで）
1993年 4月 光華女子大学非常勤講師（1995年 3月まで）
1995年 4月 天理大学専任講師
2000年 4月 天理大学助教授
2006年 4月 筑波大学大学院助教授
（制度変更により、2008年 4月より准教授。改組により、2012年 4月より人文社会系准教授。）
2016年 8月 Harvard-Yenching Institute Visiting Scholar（2017年 5月まで）
2017年 2月 名古屋大学大学院文学研究科准教授
（改組により、2017年 4月より大学院人文学研究科准教授。）
2019年 5月 名古屋大学大学院人文学研究科教授

〈所属学会〉

- 1987年 6月 中世文学会会員
1989年 4月 説話文学会会員

- 1990年4月 仏教文学会会員
 2002年3月 戒律文化研究会会員
 2006年4月 説話文学会委員
 2007年4月 中世文学会常任委員
 2009年4月 西行学会会員・同学会委員
 2010年4月 和漢比較文学会理事（2012年3月まで）
 2011年4月 日本仏教総合研究会会員
 2012年12月 日本文学協会運営委員（2014年11月まで）
 2017年12月 日本文学協会運営委員（2021年11月まで）
 2018年3月 日本仏教総合研究会評議員
 2020年4月 日本仏教総合研究会理事

〈業 績〉

著 書

- 1 『続古事談注解』（共著）和泉書院、1994年6月。
- 2 『日光天海蔵 直談因縁集 翻刻と索引』（共編著）和泉書院、1998年10月。
- 3 『春日権現験記絵注解』（共著）和泉書院、2005年2月。
- 4 『天野山金剛寺善本叢刊第一期 第二巻：因縁・教化』（共編著）勉誠出版、2017年2月。
- 5 『ひと・もの・知の往来—シルクロードの文化学』（アジア遊学208）（共編著）勉誠出版、2017年5月。
- 6 『玄奘三蔵—新たなる玄奘像をもとめて』（共編著）勉誠出版、2021年12月。
- 7 『宗教遺産テキスト学の創成』（共編著）勉誠出版、2022年3月。
- 8 『ことば・ほとけ・図像の交響—法会・儀礼とアーカイヴ』（単編著）勉誠出版、2022年3月。
- 9 『ハーバード美術館 南無仏太子像の研究』（共編著）中央公論美術出版、2023年3月。
- 10 『玄奘三蔵がつなぐ中央アジアと日本』（共編）臨川書店、2023年12月。

図書掲載論文（単著）

- 1 「談義注釈と物語—略本系『西行物語』について—」平安文学論究会編『講座平安文学論究』第10輯、風間書房、415p（317-351p）、1994年12月。
- 2 「浄土宗談義書における説話覚書（二）—『当麻曼陀羅疏』の綴る『発心集』依拠説話をめぐって—」伊井春樹編『古代中世文学研究論集』第1集、和泉書院、369p（329-350p）、1996年10月。
- 3 「鎌倉期説話集と朗詠注—『十訓抄』・『古今著聞集』における『和漢朗詠集』収載詩句説話をめぐって—」島津忠夫先生古稀記念論集刊行会編『日本文学史論 島津忠夫先生古稀記念論集』世界思想社、596p（137-151p）、1997年9月。
- 4 「話型を同じくする物語の再編—直談の因縁をめぐる」石橋義秀・寺川眞知夫・廣田哲通・三村晃功編『仏教文学とその周辺』和泉書院、431p（263-282p）、1998年5月。

- 5 「輻輳する伝承の層—『直談因縁集』と中世物語・語り物文芸—」伊井春樹編『古代中世文学研究論集』第3集、和泉書院、602p (411-430p)、2001年1月。
- 6 「春日靈験伝承をめぐる緇神と緇侶—九条兼実と菩提山僧正信円など—」池上洵一編『論集 説話と説話集』和泉書院、421p (263-284p)、2001年5月。
- 7 「天理大学附属天理図書館蔵『春日権現講式』本文と解題」石川透・岡見弘道・西村聡編『鎌倉室町文学論纂』三弥井書店、719p (473-492p)、2002年5月。
- 8 「中世初頭南都における中世的言説形成に関する研究—南都再建をめぐる九条兼実と縁起—」伊井春樹先生御退官記念論集刊行会編『日本古典文学史の課題と方法—漢詩和歌物語から説話唱導へ—』和泉書院、628p (395-422p)、2004年3月。
- 9 「『東南院御前聖教目録』解題」国文学研究資料館編、真福寺善本叢刊第二期第一巻『真福寺古目録集二』臨川書店、717p (561-585p・693-710p)、2005年2月。
- 10 「三国意識の挫折と展開—中世前期南都における神道説の形成—」「南都復興の勸進をめぐる唱導と言説—東大寺・興福寺における緇素の連繋—」「『建久御巡礼記』をめぐる問題について」「中世初頭南都における中世的言説形成に関する研究—南都再建をめぐる九条兼実と縁起—」「『春日権現験記絵』と貞慶—『春日権現験記絵』所収貞慶話の註釈的考察—」「貞慶の唱導と勸進に関する考察のための覚書—『讚仏乗抄』所収南都関連勸進記事抄—」、『中世前期の南都における唱導文献に関する研究』（文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表者：近本謙介、課題番号：15520129 (2003-2005)）、155p、2006年3月。
- 11 「慈円から慶政へ—九条家の信仰と文学における継承と展開—」中世文学会編『中世文学研究は日本文化を解明できるか「中世文学会創設50周年」記念シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」の記録』笠間書院、405p (274-293p)、2006年10月。
- 12 「僧侶をめぐる山辺の伝承と文化」天理大学文学部編『山辺の歴史と文化』、417p (132-150p)、2006年11月。
- 13 「天理図書館蔵『法華山寺縁起』について—影印・翻刻・解題と考察—」『唱導文学研究』第6号、三弥井書店、321p (257-286p)、2008年1月。
- 14 「室町の学芸とお伽草子—『直談因縁集』書写と関東天台—」徳田和夫編『お伽草子百花繚乱』笠間書院、623p・左59p (316-330p)、2008年11月。
- 15 「金剛寺蔵『清水寺縁起』（漢文縁起）について」『真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究—金剛寺本を中心に—』（文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表者：後藤昭夫、課題番号：19320037）、239p (69-75p)、2009年3月。
- 16 「南都における信仰空間の草創と継承—鳥羽院造立春日御塔をめぐる—」阿部泰郎編『中世文学と隣接諸学 中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、646p (524-539p)、2010年10月。
- 17 「金剛寺蔵『清水寺縁起』（漢文縁起）考察・補遺と本文の紹介」『真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究—金剛寺本を中心に—』（文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表者：後藤昭夫、課題番号：19320037）、239p (141-155p)、2011年3月。
- 18 「遁世と兼学・兼修—無住における汎宗派的思考をめぐる—」小島孝之監修『無住—研究と資料—』あるむ、718p (17-42p)、2011年12月。
- 19 「『今昔物語集』の「鮭」」「鳥獣虫魚の文学史」（日本古典の自然観4 魚の巻）三弥井書店、367p (95-110p)、2012年7月。

- 20 「中世における神仏習合思想の展開—鎌倉時代初期の文芸をめぐって—」『2010年キエフ国立大学・筑波大学日本研究学術フォーラム報告集』137p (12-19p)、2013年3月。
- 21 「天野山金剛寺蔵『清水寺縁起』〈漢文縁起〉について」神戸説話研究会編『論集 中世・近世説話と説話集』和泉書院、502p (201-228p)、2014年9月。
- 22 「『春日権現験記絵』と貞慶—『春日権現験記絵』所収貞慶話の注釈的考察—」神戸説話研究会編『春日権現験記絵注解』和泉書院、366p (251-275p)、2014年10月改訂重版 (2005年2月初版)。
- 23 「平安時代の東大寺における修験と浄土教—聖宝と永観を中心に—」『ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集』第11号、法蔵館、102p (33-45p)、2014年11月。
- 24 「玄奘三蔵の記憶—日本中世における仏教東漸の構想—」『「ひと・もの・知の往来—国際比較日本文化研究の可能性を探る—」シルクロード国際研究フォーラム報告書』、238p (50-60p)、2014年12月。
- 25 「中世に説話集が流行したのはなぜか」松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘編『古典文学の常識を疑う』勉誠出版、227p (126-129p)、2017年5月。
- 26 「聖徳太子転生言説の宗教史—ふたつの聖なる遺物をめぐる道長・頼通とのかかわりへの視座—」阿部泰郎・吉原浩人編『南岳衡山と聖徳太子信仰』勉誠出版、352p (167-190p)、2018年9月。
- 27 「論義についてかたる南都の伝承—維摩会と『春日権現験記絵』との相関—」楠淳澄・野呂靖・亀山隆彦編『日本仏教と論義』法蔵館、628p (415-447p)、2020年2月。
- 28 「春日信仰をめぐるアーカイヴス」名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター編『HERITEX』Vol. 3、324p (240-242p)、2020年3月。
- 29 「源氏十七歳の秋—交錯する前奏曲 (preludio) と通奏低音 (basso continuo)—」久保朝孝編『源氏物語を開く』武蔵野書院、720p (41-54p)、2021年3月。
- 30 「疫病を表象する信仰の文学瞥見」日比嘉高編『疫病と日本文学』三弥井書店、254p (184-194p)、2021年7月。
- 31 「『玄奘三蔵絵』の構造と構想—興福寺における宗の論理と『春日権現験記絵』との相関—」佐久間秀範・近本謙介・本井牧子編『玄奘三蔵—新たなる玄奘像をもとめて—』勉誠出版、592p (518-554p)、2021年12月。
- 32 「夢と託宣の体現する境界性のコスモロジー—神仏と人の身体論—」木俣元一・近本謙介編『宗教遺産テキスト学の創成』勉誠出版、728p (273-295p)、2022年3月。
- 33 「『維摩経』をめぐる法会・文芸・芸能—『春日権現験記絵』を視座として—」近本謙介編『ことば・ほとけ・凶像の交響—法会・儀礼とアーカイヴ—』勉誠出版、544p (89-117p)、2022年3月。
- 34 「ハーバード美術館 南無仏太子像内納入戒疏談義聞書について—北京・南都の律の展開と交差をめぐる宗教的環境と言説—」阿部泰郎・阿部美香・近本謙介・サンダース レイチェル・瀬谷愛・瀬谷貴之編『ハーバード美術館 南無仏太子像の研究』中央公論美術出版、前付16p・カラー図版48p・本文322p (121-142p)、2023年3月。

学術雑誌掲載論文（単著）

- 1 「『撰集抄』の方法—仮託説話・非仮託説話併存の意味に向けて—」『詞林』第3号、50-61p、1988年5月。
- 2 「『撰集抄』成立に関する試論—巻末意識とその性質—」『中世文学』第33巻、80-92p、1988年6月。
- 3 「浄土宗談義書における説話覚書（一）」『詞林』第8号、48-59p、1990年10月。
- 4 「往生の集としての『撰集抄』」『語文』第55輯（大阪大学国語国文学会）、27-46p、1990年11月。
- 5 「本説をもって説く古今注ひとつ—三手文庫蔵『古今秘抄』考—」『待兼山論叢』文学編第26号、1-16p、1992年12月。
- 6 「〔資料紹介〕三手文庫蔵『古今秘抄』」『詞林』第13号、1-46p、1993年4月。
- 7 「『咸陽宮』絵巻伝本における物語化の方法—その記述と素材—」『語文』第60輯、24-36p、1993年5月。
- 8 「『松浦宮物語』の構想と周辺の文芸—長谷・住吉から弁少将の造型に至る—」『詞林』第15号、72-87p、1994年4月。
- 9 「耆婆説話の流伝に関する覚書—『不老不死』成立論のための一視点—」『山邊道』第40号、47-55p、1996年3月。
- 10 「直談の説話の位相—日光輪王寺天海蔵『直談因縁集』をめぐって—」『山邊道』第41号、13-30p、1997年3月。
- 11 「天理図書館蔵探幽縮図写絵巻 解題と翻刻—『解脱上人明恵上人伝絵巻』・『天狗草紙』—」『山邊道』第42号、21-48p、1998年3月。
- 12 「『春日権現験記絵』成立と解脱房貞慶」『中世文学』第43号、69-80p、1998年5月。
- 13 「南都をめぐる能と日本紀—補陀落の南の岸に展開する文芸世界—」『国文学 解釈と鑑賞』第64巻3号（通巻814号）、至文堂、165-173p、1999年3月。
- 14 「春日をめぐる因縁と言説—貞慶と『春日権現験記絵』に関する新資料—」『金沢文庫研究』第302巻、20-36p、1999年3月。
- 15 「貞慶伝とその周辺—海住山寺文書をめぐって—」『佛教文学』第24号、71-83p、2000年3月。
- 16 「西行邂逅譚の系譜—『撰集抄』の文学史的定位のために—」『伝承文学研究』第50号、70-81p、2000年5月。
- 17 「廃滅からの再生—南都における中世の到来—」『日本文学』第49巻7号（特集：中世の〈終末イメージ〉）、29-38p、2000年7月。
- 18 「後奈良天皇の浄土信仰と談義—『宸翰英華』所収「後奈良天皇宸筆法文御聞書」を端緒として—」『山邊道』第46号、1-14p、2002年3月。
- 19 「『和州橘寺勧進帳』解題・翻刻」『名古屋大学比較人文学研究年報 2002年』（「仁和寺史料 第三集【縁起編】」）、73-90p、2003年3月。
- 20 「唱導・談義と説話形成—法相宗の法脈を語る『春日権現験記絵』の説話伝承—」『国文学 解釈と教材の研究』第48巻11号（特集：中世の伝承—立ちあらわれる文化の基体）、29-35p、2003年9月。
- 21 「謡曲〈求塚〉考—その素材と展開—」『山邊道』第48号、25-39p、2004年3月。

- 22 「唱導の文の集成—内閣文庫蔵『金玉要集』について—」『伝承文学研究』第53号（特集：シンポジウム「唱導と説話」）、17-38p、2004年3月。
- 23 「『建久御巡礼記』をめぐる問題について—報告と小考—」『説話文学研究』第40号（仏教文学会合同例会「寺社縁起」特集）、150-153p、2005年7月。
- 24 「文治から建久へ—東大寺衆徒伊勢参詣と西行—」『巡礼記研究』第3号、87-100p、2006年9月。
- 25 「慶政の『漂到琉球国記』」『国文学 解釈と鑑賞』第71巻10号（特集：琉球文学の内と外—東アジアの視界 琉球・ヤマト往還）、107-112p、2006年10月。
- 26 「南都復興と治承がたり」『軍記と語り物』第43巻、86-101p、2007年3月。
- 27 「説話集における神祇—僧侶による参宮話とその周辺—」『国文学 解釈と鑑賞』第72巻8号（特集：説話文学の魅力を探る—その黎明期から盛行期まで）、166-175p、2007年8月。
- 28 「貞慶の唱導と関東—東大寺図書館蔵『如意鈔』をめぐる—」『戒律文化』第6号、45-56p、2008年3月。
- 29 「聖地の継承と再構築に関する言説と行為—聖徳太子信仰をめぐる託宣と巡礼の視点から—」『アジア遊学』第115号（特集：縁起の東西—聖人・奇跡・巡礼）、勉誠出版、22-31p、2008年10月。
- 30 「シンポジウム「画期における中世文学」の記録—院政期末から鎌倉初期の画期をめぐる提言をかねて—」『中世文学』54号、1-11p、2009年6月。
- 31 「南都復興の継承と展開—慶政の勸進をめぐる三つの霊託—」『文学』第11巻1号（特集：南都の文学）、岩波書店、65-80p、2010年1月。
- 32 「鎌倉時代初頭の五祖影像供養をめぐる—清水寺史の空白を埋める新史料の発見—(上)」『清水』179号、29-37p、2010年2月。
- 33 「院の宗教施策と聖の文筆活動—鳥羽院と西行を視座として—」、Rethinking the Boundaries between Religion and Culture in Premodern Japan 予稿集、145-155p、2010年3月。
- 34 「無住の狂言綺語観と和歌陀羅尼観研究覚書—シンポジウム「仏教文学とは何か」とのかかわりから—」『佛教文学』第34号、183-187p、2010年3月。
- 35 「鎌倉時代初頭の五祖影像供養をめぐる—清水寺史の空白を埋める新史料の発見—(下)」『清水』180号、28-36p、2010年5月。
- 36 「解脱房貞慶の唱導の多面性と意義—今津文庫所蔵『解脱上人御草』所収「南京北山宿非人等敬白」をめぐる—」『説話文学研究』第45号、126-138p、2010年7月。
- 37 「「金沢文庫・称名寺聖教の唱導資料をめぐる—」開催の趣旨と問題提起—シンポジウム報告との関わりから—」『説話文学研究』第46号、24-28p、2011年7月。
- 38 「西行の文学史の再評価にむけて」『西行学』第2号、167-179p、2011年9月。
- 39 「聖と遁世の文学史点描」『駒澤大学佛教文学研究』第16号、3-17p、2013年3月。
- 40 「入宋僧を介した典籍の伝播と文芸の展開」『説話から世界をどう解き明かすのか』（説話文学会設立50周年記念シンポジウム〔日本・韓国〕の記録）、笠間書院、248-254p、2013年7月。
- 41 「金峯山史の記憶をたどる記録と文芸再考」『説話文学研究』第49号、72-76p、2014年10月。
- 42 「『撰集抄』の枠組みとしての西行仮託再考」『西行学』第5号、21-36p、2014年12月。
- 43 「読む あさか山の影の深淵」『日本文学』第64巻3号、66-71p、2015年3月。

- 44 「南都における浄土信仰の位相—貞慶と『春日権現験記絵』をめぐって—」『國語と國文学』第92巻5号（特集：中世文学と信仰）、52-65p、2015年5月。
- 45 「危機に対峙する文芸の構想と変奏—藤末謙初における往生と汎宗派的志向をめぐって—」『日本文学』第65巻7号（特集：危機と対峙する中世文学）、2-13p、2016年7月。
- 46 「大般若経と春日若宮信仰—女院と尼僧をめぐる鎌倉仏教史—」『説話文学研究』第51号、136-147p、2016年8月。
- 47 「玄奘三蔵の記憶—『玄奘三蔵絵』と三宝伝来との相関—」『アジア遊学』第208号『ひと・もの・知の往来—シルクロードの文化学』、勉誠出版、152-167p、2017年5月。
- 48 「文化史としての翻案と翻訳—西行の和歌と伝承をめぐって—」『西行学』第9号、202-211p、2018年10月。
- 49 「清水寺縁起の展開—東大寺図書館蔵『如意鈔』における五祖影像供養唱導をめぐって—」『日本仏教総合研究』第17号、29-52p、2019年9月。
- 50 「北京・南都における律の展開と交差をめぐる史料と言説」『説話文学研究』第55号、67-82p、2020年9月。
- 51 「シルクロードに展開する文化の記録と記憶—日本における仏教經典の芸能への展開—」『文明のクロスロード12 国際会議「多元性のパラダイムを求めて」』、2020年11月。
- 52 「「仏には桜の花をたてまつれ」歌をめぐる西行と鳥羽院—サントリー美術館蔵白描『西行物語絵巻』の画中歌を端緒として—」『西行学』第12号、45-58p、2021年10月。
- 53 「東大寺戒壇院文安の回禄と復興における縁起—勸修寺蔵『戒壇受戒縁起』をめぐって—」『ザ・グレートブッダ・シンポジウム論集』第19号、101-111p、2022年11月。
- 54 「輻輳する変容と共鳴の相と像」『説話文学研究』第57号、169-173p、2022年9月。

学術論文以外の研究業績

- 1 「古筆切研究文献目録」（共著）平安文学論究会編『講座平安文学論究』第5輯、風間書房、351p（323-351p）、1988年10月。
- 2 「参考文献・索引」本田義憲・池上洵一・小峯和明・森正人・阿部泰郎編『説話の場 唱導・注釈』（『説話の講座3』）、勉誠社、413p（368-413p・左1-19p）、1993年2月。
- 3 「金玉要集（内閣文庫蔵）翻刻」（共著）伊藤正義監修『磯馴帖』和泉書院、488p（137-235p、454-456p）、2002年7月。
- 4 「文学史を彩る言説の背景点描」『島津忠夫著作集』第一巻「文学史」附録月報、和泉書院、3-4p、2003年2月。
- 5 豊田市遺跡調査会編纂（豊田史料叢書第十八回配本）『猿投神社聖教典籍目録』、379p（178-181p）、2005年3月。
- 6 「〈求塚〉の素材としての『大和物語』再考」篠山春日能実行委員会編『第30回 篠山春日能』解説図録、11-12p、2005年5月。
- 7 （書評）「深沢徹著『『愚管抄』の〈ウソ〉と〈マコト〉—歴史語りの自己言及性を越え出て』」『説話文学研究』第42号、137-140p、2007年7月。
- 8 （書評）「藤井佐美著『真言系唱導説話の研究—付・翻刻 仁和寺所蔵『真言宗打聞集』』」『論究日本文学』第91号、61-64p、2009年12月。
- 9 （書評）「小峯和明著『中世法会文芸論』」『説話文学研究』第45号、200-206p、2010年7月。

- 10 (書評)「山口眞琴著『西行説話文学論』『西行学』創刊第1号、194-199p、笠間書院、2010年8月。
- 11 「興福寺」ほか9項目執筆、大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』東京書籍、2010年11月。
- 12 「続本朝往生伝はじめ往生伝類」阿部泰郎監修、名古屋市博物館・真福寺大須観音調査研究会編『大須観音 いま開かれる、奇跡の文庫』大須観音宝生院、253p (90-91p)、2012年11月。
- 13 「重源」ほか6項目執筆、『和歌文学大辞典』編集委員会編『和歌文学大辞典』、古典ライブラリー、2014年12月。
- 14 「仏教説話のみちゆき一称名寺伝来の春日関係説草の窓から一」・「説草『春日因縁少々』・『俊盛卿因縁』・『多聞房已講事 付春日大明神』」翻刻、神奈川県立金沢文庫編『特別展 仏教説話の世界』、120p (76-77p・114-116p)、2015年10月。
- 15 「序文 ひと・もの・知の往来—シルクロードの文化学」『アジア遊学』第208号『ひと・もの・知の往来—シルクロードの文化学』、勉誠出版、4-14p、2017年5月。
- 16 「重要美術品 清水寺仮名縁起 清水寺真名縁起」(解題)、後藤昭雄監修、赤尾栄慶・宇都宮啓吾・海野圭介編『天野山金剛寺善本叢刊第二期 第五巻 重書』勉誠出版、426p (405-423p)、2018年2月。
- 17 「水分講式」・「龍王講式」・「弥勒講式」・「涅槃講式」・「神泉園事」(以上翻刻)、「金剛寺蔵講式類」(解題)、後藤昭雄監修、中原香苗・米田真理子編『天野山金剛寺善本叢刊第二期 第三巻 儀礼・音楽』勉誠出版、656p (422-472p・574-598p)、2018年2月。
- 18 「桜の花をたてまつる西行—サントリー美術館蔵白描『西行物語絵巻』の画中歌をよむ—」和歌山県立博物館「西行展」図録特論、353p (260-263p)、2018年10月。
- 19 (書評)「平野多恵著『明恵—和歌と仏教の相克』」『國語と國文学』第96巻7号、明治書院、67-73p、2019年7月。

科学研究費(研究代表者)

- 1 奨励研究(A)「中世南都の文学生成に関する文献学的研究」、1999~2000年度。
- 2 基盤研究(C)「中世前期の南都における唱導文献に関する研究」、2003~2005年度。
- 3 基盤研究(C)「寺社勧進・修造をめぐる唱導文芸に関する文献学的研究—九条家と慶政の動向を中心に—」、2006~2008年度。
- 4 基盤研究(B)「院政期の宗教施策に関する寺院文芸研究—鳥羽から後鳥羽院政をめぐる領域複合的解明—」、2009~2012年度。
- 5 基盤研究(B)「唱導文献に基づく法会の総合的研究」、2013~2015年度。
- 6 基盤研究(B)「唱導文献に基づく法会の総合的研究—寺院聖教調査の統合と復元的研究への展開—」、2016~2019年度。
- 7 基盤研究(A)「中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明」、2020~2024年度。
- 8 挑戦的研究(萌芽)「科学技術を駆使した唱導資料と交流史に基づく東アジア法会学創成への挑戦」、2021~2023年度。